

**赤れんが周辺等まちづくり構想に関する  
提言書**

**平成28年3月18日**

**舞鶴市赤れんが周辺等まちづくり構想策定懇話会**

# はじめに

舞鶴市は、海とともに歩んできたまちであり、特に海軍鎮守府が設置された明治期以降は、日本の近代化を支え、また、今日まで日本の安全を守るという崇高な役割を担ってきたまちです。

一世紀の時を超え当時の姿を残す赤れんが倉庫群、隣接する国防拠点・海上自衛隊施設を中心とするエリアは、そうした舞鶴市が有する歴史、まちの誇りを象徴する場所であり、多くの人を引き付ける魅力あるエリアとなっています。

舞鶴市は、これまでに「赤れんがを活かしたまちづくり」を進める中で、「赤れんが博物館」や「市政記念館」など、5棟の赤れんが倉庫を転活用してきたところであり、平成24年には、「舞鶴赤れんがパーク」としてグランドオープンさせ、様々な取組を展開する中で、多くの来場者でにぎわいを創出してきました。

昨年には、京阪神、北陸、中京圏を結ぶ高速道路網が完成し、また、京都舞鶴港の機能強化により大型クルーズ客船の寄港も増加する中で、今後、国内外からさらに多くの方が、赤れんがパークを訪れることが見込まれています。

このような中、舞鶴市が、防衛省の事業を活用し、「赤れんがパーク」を核とする周辺一帯を、市のブランドイメージである「赤れんが」「海・港」を生かし、また、隣接する自衛隊施設とも調和を図りながら、日本有数の一大交流拠点とするための方向性等を定める「基本構想」を策定するにあたり、地域資源を活かした都市開発やまちづくり、都市のブランド形成などにおいて、豊富な経験やノウハウ、ネットワークなどを有する有識者、商工団体、まちづくり団体等から提案・意見を求めることを目的として、平成27年10月に、「赤れんが周辺等まちづくり構想策定懇話会」が設置されました。

懇話会では、「赤れんがパーク周辺」を重点検討エリアと位置付け、現状や課題を整理し、エリアに必要な機能、今後の整備の方向性などについて、精力的に議論を行いました。また、事業者アンケートを実施するなど、今後の民間活力導入の検討に必要な意向把握を行い、提言のとりまとめに生かしました。

本提言は、懇話会での議論やアンケート結果等を踏まえ、整備の方向性や必要な機能を定めるとともに、今後の構想の展開に当たっての基本的な考え方を示し、具体的な施設配置に向けた提案を導き出したものです。

今後、舞鶴市におかれましては、本提言を十分に参考にしていただき、貴重な赤れんが倉庫群を含むこのエリアが、舞鶴市民の誇りの象徴として、後世に引き継がれ、新たな文化を育むエリアとなるよう、また、国内外から多くの方が訪れ、交流とにぎわいを創出する交流拠点となるよう、市民をはじめ、経済界、多くの団体、関係者等とともに、具体的な検討が行われ、構想の実現に向けてご尽力いただくことを、長年にわたり、このエリアの活性化に携わってきた者の一人として念願する次第です。

平成28年3月

舞鶴市赤れんが周辺等まちづくり構想策定懇話会  
座長 宗本 順三

# 1. 懇話会設置・提言とりまとめ経過

「赤れんが周辺等まちづくり構想策定懇話会」（以下、「懇話会」とする。）は、舞鶴市が、防衛省の「まちづくり構想策定支援事業」を活用し、「赤れんがパーク周辺エリア」及び「しおじ通り周辺エリア」一帯を、舞鶴市のブランドイメージである「赤れんが」「海・港」を生かした日本有数の一大交流拠点として整備・開発するための方向性等を示す「赤れんが周辺等まちづくり基本構想（以下、「基本構想」とする。）」を策定するにあたり、幅広い識見や豊富な経験、ネットワーク等を有する有識者、商工団体、まちづくり団体等から提案・意見を求めることを目的に設置されたものです。

懇話会では、構想の対象エリアの現状と課題を整理し、必要な機能、整備の方向性等について、多様な視点で意見を出し合い、協議する中で、基本構想に対する提言をとりまとめました。

表1-1 赤れんが周辺等まちづくり構想策定経過

平成27年10月	赤れんが周辺等まちづくり構想策定懇話会設置		
平成27年10月 ～平成28年3月	懇話会開催（計4回）		
		日 程	主 な 議 事
	第1回	平成27年 10月9日(金)	○意見交換 ・対象エリアの現状と課題等について ・対象エリアに必要な機能、施設について
	第2回	平成27年 11月17日(火)	○整備の方向性等について ○アンケート・ヒアリング調査等の実施について
	第3回	平成28年 2月4日(木)	○アンケート調査結果等について ○施設配置提案について ○まちづくりの基本的な考え方について ○懇話会提言(素案)について
第4回	平成28年 3月18日(金)	○提言書(案)に係る協議、とりまとめ	
平成28年3月	懇話会意見とりまとめ 舞鶴市への報告		

## 2. 赤れんがパークと周辺エリアの特性

基本構想の対象エリアである「赤れんがパーク周辺エリア」及び「しおじ通り周辺エリア」一帯は、明治34年の海軍鎮守府開庁に伴い開発・整備されたエリアであり、現在も、明治・大正期に建設された赤れんが倉庫群をはじめ、多くの近代化遺産が現存し活用されるとともに、海上自衛隊施設、造船所施設が隣接しており、舞鶴市（東地区）の近代から今日までの都市形成の成り立ちを象徴するエリアとなっています。

舞鶴市の近代建築物を代表する「赤れんが倉庫」は、平成5年に「赤れんが博物館」、平成6年に「市政記念館」、平成19年に「まいづる智恵蔵」として整備され、多くの市民に親しまれてきましたが、舞鶴市では、観光ブランド戦略をさらに推し進めるため、新たに赤れんが倉庫2棟を「赤れんが工房」「赤れんがイベントホール」として整備するとともに、文部科学省3棟の赤れんが倉庫エリアを含む倉庫群エリア全体を、観光戦略拠点「赤れんがパーク」として、平成24年にグランドオープンさせました。

「赤れんがパーク」では、各施設を活用した多彩な事業、赤れんが倉庫を含む周辺の空間全体を活かしたイベント等が展開されるとともに、海軍ゆかりの港めぐり遊覧船事業が実施されるなど、舞鶴市のブランドイメージである「赤れんが」「海・港」を体感できるエリアとなっており、平成27年には、年間約40万人と多くの方が来場する市の重要な集客交流施設となっています。

また、「赤れんがパーク」西側の防衛施設は、近畿・北陸・中部圏唯一の海上自衛隊施設であり、国防上の重要拠点であることはもちろんのこと、週末等を中心に、市内外から多くの方が見学に訪れる施設（北吸栈橋、海軍記念館、旧・東郷邸など）となっています。

平成27年夏には、高速道路ネットワークが完成し、今後、さらに舞鶴市への来訪者が増加することが予想される中、防衛施設との調和を図りながら、観光戦略拠点である「赤れんがパーク」を中心とした周辺エリアの機能拡充が必要となっています。

さらに、「赤れんがパーク周辺エリア」に近接する「しおじ通り周辺エリア」には、舞鶴一北海道・小樽を結ぶフェリーが発着する舞鶴前島埠頭（前島フェリーターミナル）があり、人・モノの交流拠点、海の玄関口としての機能を有するとともに、前島みなと公園、総合文化会館、しおじプラザが所在し、市民交流の場としての機能も有しています。

平成27年4月には、前島地区に子育て交流施設「あそびあむ」、「うみべのもり保育園」が開設、しおじプラザ南側に舞鶴YMCA国際福祉専門学校が開校するなど、エリア内に新たな人の流れが生まれています。

赤れんがパークと周辺エリアの特性を踏まえ、「赤れんがパーク周辺エリア」を重点検討エリアとして、周辺エリアを含め、それぞれの機能を最大限に高める整備が必要となっています。

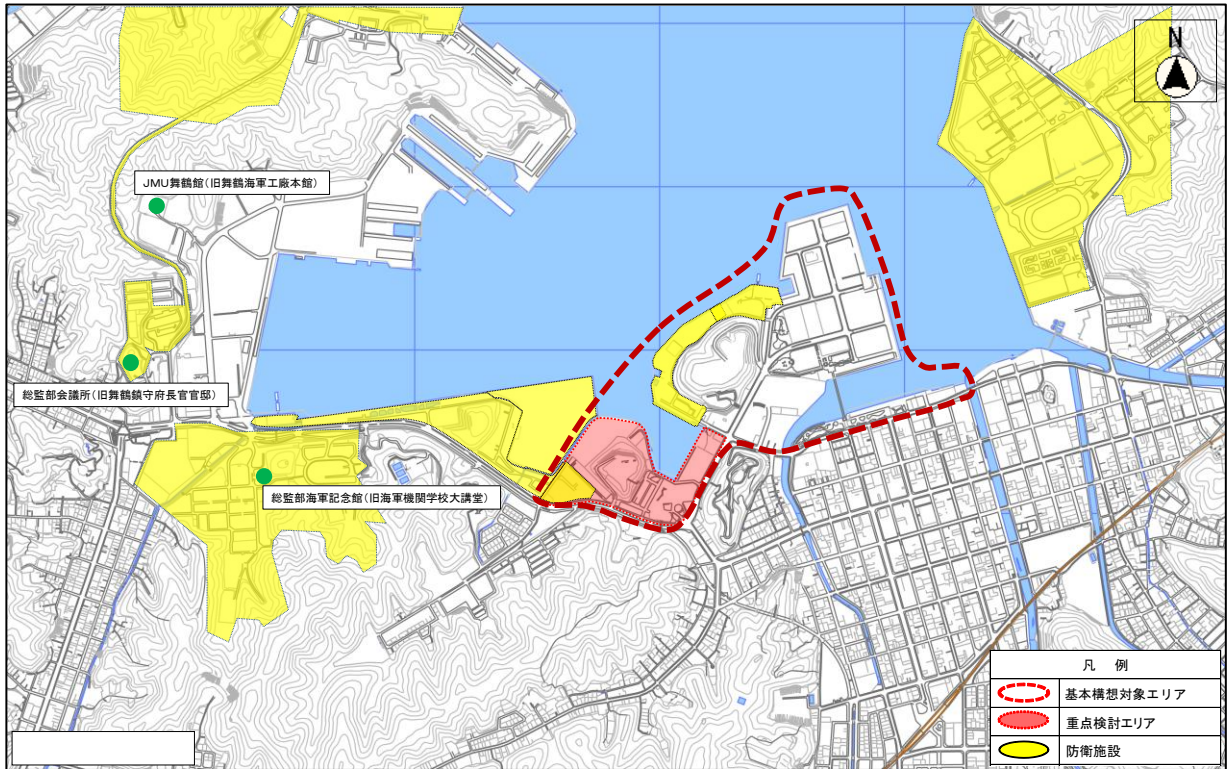


図 2-1 基本構想対象エリア



図 2-2 基本構想対象エリアの現況

### 3. 赤れんがパークと周辺エリアの現状と課題

#### 3-1. 赤れんがパークと周辺エリアの現状

##### (1) 赤れんがパークの現況

##### ① 赤れんが倉庫の利用等現況

- 全国的にも類をみない赤れんが倉庫の集積
- 文部科学省3棟や、防衛省の倉庫として使用されている三角地No. 17倉庫は、活用することができる

表3-1 赤れんが倉庫の利用等現況

号棟	規模 (㎡)	利用状況
1号棟	(延床) 830	赤れんが博物館 [重要文化財]
2号棟	(建築) 779 (延床) 1,204	市政記念館 (カフェ・展示・ホール200名) [重要文化財]
3号棟	(建築) 790 (延床) 1,522	まいづる知恵蔵 (ショップ、展示) [重要文化財]
4号棟	(建築) 855 (延床) 1,611	赤れんが工房 (工房、スタジオ、フリースペース) [重要文化財]
5号棟	(建築) 1,266 (延床) 2,532	赤れんがイベントホール (多目的ホール) [重要文化財の附指定]
文部科学省 3棟	(建築) 542 (延床) 1,090	未利用 [重要文化財]
No. 17倉庫		防衛省倉庫として使用中



図3-1 赤れんがパーク配置図 (赤れんが倉庫の位置図)

## ② 赤れんがパークの来場者数・施設利用状況

- 平成24年のグランドオープン以降、来場者数は大幅増加（オープン前の約4倍）
- 赤れんがパーク施設利用率も上昇している

表3-2 赤れんがパーク来場者数

年次	来場者数
平成23年	10.4万人
平成24年	11.7万人
平成25年	18.5万人
平成26年	33.3万人
平成27年	39.9万人

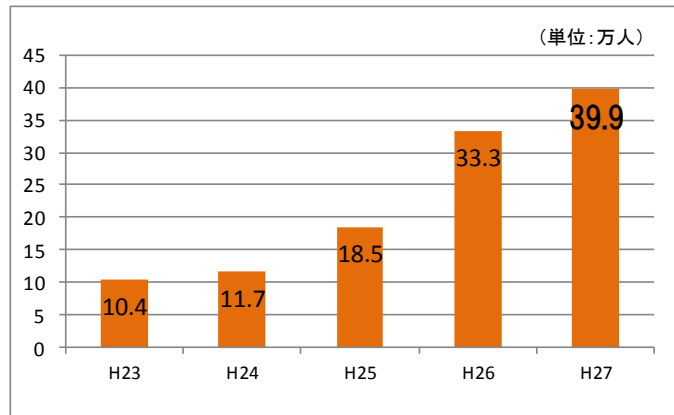


表3-3 赤れんがパーク施設利用率

施設名	平成25年度	平成26年度
全体	42.2%	53.4%
2号棟（市政記念館）	40.1%	47.7%
3号棟（智恵蔵）	55.2%	73.2%
4号棟（赤れんが工房）	35.0%	39.9%
5号棟（イベントホール）	38.6%	52.7%

## ③ 賑わい創出に向けた取り組みの現状

- ビア・ワインホールや、企画展、音楽・ファッションイベント、プロジェクションマッピング等が展開されている



- バザール、ライブ、ブライダル、サブカルイベント等、多様な民間団体による利用



#### ④ 赤れんがパーク周辺の週末・イベント開催時等の状況

- 赤れんがパーク、防衛施設への多くの来訪者でにぎわう
- イベント開催時等には、赤れんがパーク駐車場、市政記念館前駐車場等では駐車しきれない状況が生じている





## (2) 土地利用状況等

### ① 土地所有現況

- 赤れんがパーク（1～5号棟・専用駐車場）、市役所、文庫山学園、東体育館、総合文化会館、子育て交流施設などの敷地は、市有地となっている。
- 前島埠頭や、京都府総合庁舎、舞鶴署東庁舎などの敷地は府有地となっている。
- 東山合同宿舎跡地や東山山頂部、三角地の国道向い側の用地などは財務省、東山の沿岸部と三角地は防衛省、文庫山南側にある赤れんが倉庫3棟（以後、「文科省3棟」とする。）は文部科学省が所管する国有地となっている。
- 事業の優先度と早期に利活用が可能な用地の状況等を踏まえた整理が必要である。

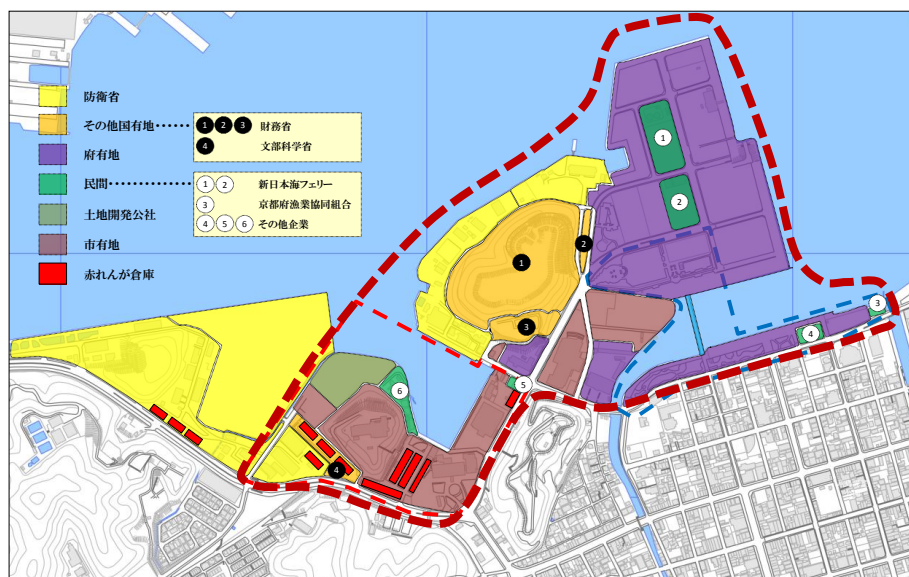


図3-2 土地所有現況図

### ② 用途地域指定の状況

- 計画対象エリアのうち、赤れんがパーク（1～5号棟・専用駐車場）、市役所、文庫山学園、東体育館、総合文化会館等の街区は「第2種住居地域」、その他は「準工業地域」に指定されている。

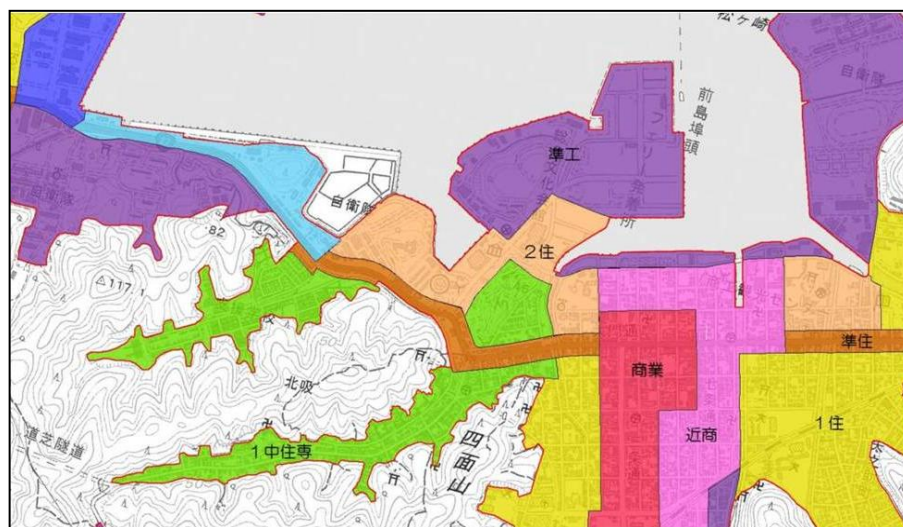


図3-3 用途地域図

## 3-2. 赤れんがパークと周辺エリアの課題

### (1) 赤れんがパークと周辺エリアの課題整理

#### <赤れんがパーク>

##### ○「赤れんがパーク」へのアプローチの明確化と駐車場機能の充実

- ・案内サインの整備等による観光駐車場入口の明確化
- ・エントランス（赤れんがパーク専用駐車場入口付近）の改善（修景等）
- ・駐車場機能（観光バスを含む）の充実（駐車台数の確保）
- ・防衛省三角地、土地開発公社所有地、財務省用地等の（取得）活用
- ・三宅団地前交差点と舞鶴市役所前交差点の改良

##### ○「海辺と赤れんが」の関連性の強化

- ・赤れんがパーク専用駐車場北側（土地開発公社所有地）の水際線活用
- ・海上遊覧機能の充実と遊覧船待合場所等の整備
- ・赤れんがパーク北側護岸沿い係留船舶の整理
- ・赤れんがパーク専用駐車場から赤れんが博物館にかけての海側回遊動線の確保

##### ○長時間滞在できる場所や休憩施設の充実

- ・滞在するための施設（宿泊施設を含む）の充実
- ・トイレや休憩所の増設（団体客にも対応）
- ・文庫山の立地・眺望環境を活かした施設の整備

##### ○子ども連れ客や団体客に対応した施設の整備

- ・小さな子どもの楽しめる施設の整備
- ・団体客に対応した飲食施設、休憩所、駐車場等の整備

##### ○収益施設の充実（雇用創出、観光消費額増加、産業基盤強化）

- ・飲食、物販機能の充実（団体客にも対応）
- ・防衛省三角地（No. 17倉庫を含む）、文部科学省3棟、土地開発公社所有地、文庫山学園などの取得と活用

##### ○歴史文化等を伝承する機能の整備

- ・「海軍ゆかりの歴史文化」や「自衛隊施設の所在するまち」を発信する施設の整備

##### ○自衛隊施設への動線の整備

- ・三宅団地前交差点～赤れんがパーク専用駐車場間の歩行動線の安全確保
- ・赤れんがパーク～自衛隊施設間の安全で利便性の高い動線の確保

##### ○赤れんが博物館への動線の改善と充実

- ・「赤れんがパーク周辺エリア」の一体感を創出するための赤れんが博物館～赤れんが倉庫（2～5号棟）～赤れんがパーク専用駐車場の動線整備

##### ○良好な景観づくり

- ・赤れんが倉庫群を活かした景観づくりと空間を活かす仕組みづくり
- ・シンボリックな景観づくりのための文庫山法面の整備（間伐、植樹）
- ・夜の「赤れんがパーク」を楽しむための夜景づくり
- ・海から見た良好な街景観（夜景）の整備

<赤れんがパークの周辺エリア・広域>

○「赤れんがパーク周辺エリア」と「しおじ通り周辺エリア」の回遊性確保

- ・赤れんがパークと前島、しおじプラザの回遊性（動線）確保
- ・前島埠頭利用客（フェリー客等）の「赤れんがパーク周辺エリア」への誘導

○まち全体としての「赤れんがのまち」化の推進

- ・まち全体を「赤れんがのまち」にするためのデザインコントロール（看板等の統一化等）

○観光客の増加に対応したまちづくりの検討

- ・中心市街地エリアにおけるゲストハウスなど、宿泊機能の整備
- ・中心市街地との回遊性を高める仕組みづくり
- ・JR東舞鶴駅から三条通り、前島連絡橋の動線整備（駅から赤れんがパークまで散策できるルートの整備）

(2) 赤れんがパークと周辺エリアにおける整備開発に係る主な課題

○効率的な事業スキーム

- ・事業の優先度の設定
- ・早期の利活用が可能な用地の確保と事業着手

○民間活力の導入

- ・民間事業者等の出店等意向の把握、進出条件の抽出

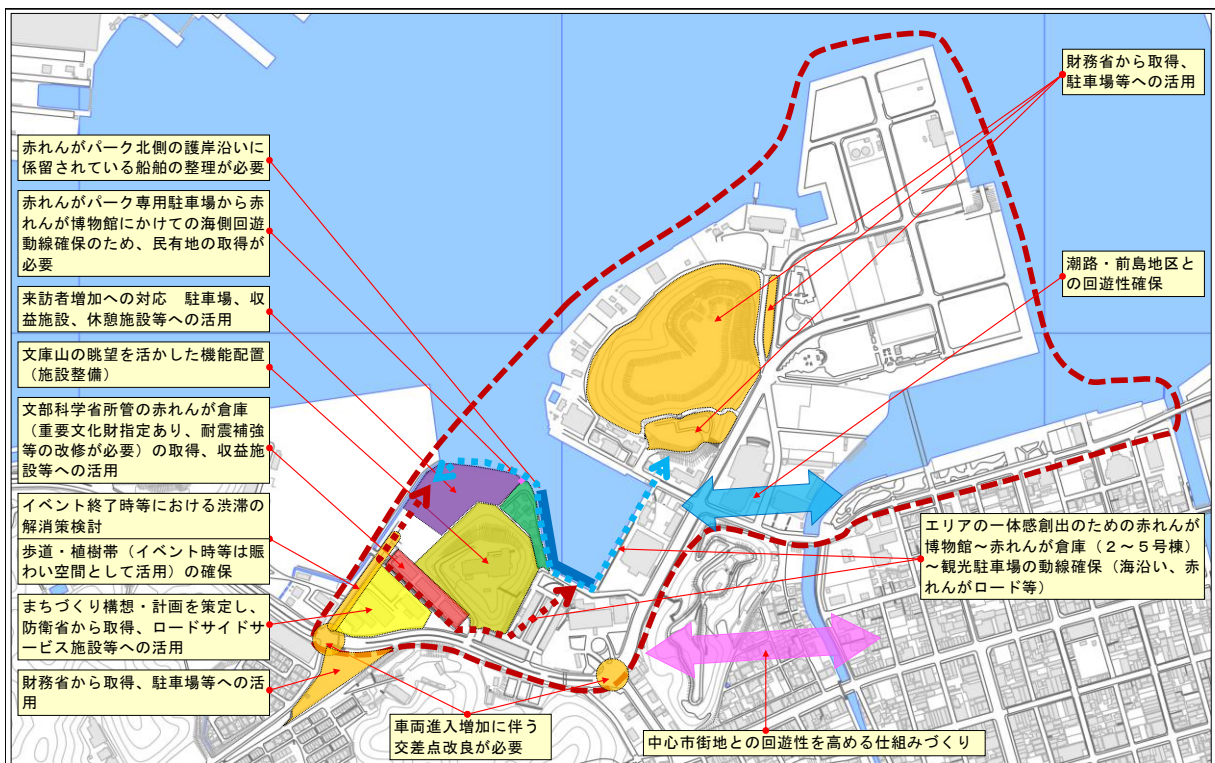


図3-4 赤れんがパークと周辺エリアの課題図

表3-4 赤れんがパークと周辺エリアの現状等におけるSWOT分析

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	<b>S (Strengths 強み)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全国屈指の赤れんが倉庫の集積（8棟が重要文化財、利用も活発）</li> <li>● 近畿・北陸・中部圏唯一の自衛隊艦艇の見学スポット</li> <li>● 幹線道路沿いに国所有地及び市所有の活用可能用地の存在</li> <li>● 子育て支援施設や前島連絡歩道橋整備等による新たな人の流れ</li> </ul> <p>➤ 広域集客が可能なポテンシャルの活用（地域資源を活用した賑わい醸成、観光交流拠点形成）</p>	<b>W (Weaknesses 弱み)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 飲食・物販機能、休憩施設、駐車場の不足</li> <li>● 観光客・団体客に対応した宿泊施設の不足</li> <li>● 商店街の空き店舗増加、商業基盤の弱体化</li> </ul> <p>➤ 魅力ある飲食・物販機能の充実</p> <p>➤ 休憩施設、駐車場の充実</p> <p>➤ 宿泊機能の充実</p> <p>➤ 中心市街地との連携強化（動線・サービス・等）</p>
	<b>O (Opportunities 機会)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高速道路ネットワークの完成、観光入込客のさらなる増加</li> <li>● 京都舞鶴港への大型クルーズ船等の寄港、訪日客の増加</li> <li>● 小樽-舞鶴を結ぶ長距離フェリー発着港。今後、新たに日韓国際フェリーが就航予定</li> </ul> <p>➤ 日本海側「海の京都」の玄関としての活用（インバウンド観光を含む広域観光促進）</p>	<b>T (Threats 脅威)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然災害の巨大化、多発化</li> <li>● 公共施設の維持管理コストの増加</li> </ul> <p>➤ 防災、避難機能の強化</p> <p>➤ ハードを重視する視点からソフトやマネジメントを重視する視点への移行。民間ノウハウの積極的活用</p>
外部環境		

## 4. 赤れんがパーク周辺エリアに対するニーズ整理

赤れんがパーク周辺エリアに対するニーズについて、市内商工事業者、観光事業者へのアンケート調査、舞鶴赤れんがパークブランディング機構、大手旅行者へのヒアリング調査、「赤れんがフェスタ in 舞鶴2015アンケート」の赤れんがパークへの意見（自由記述）を基に、「市民・来訪者の視点」と「事業者・専門家の視点」、及び「内の目（市内住民・市内事業者）」と「外の目（市外住民・市外事業者）」でニーズ等を整理しました。

	内の目（市内住民・事業者）	外の目（市外住民・事業者）
市民・ 来訪者 視点	<p style="text-align: center;">赤れんがパークに対する要望等 (赤れんがフェスタ来訪者聞き取り調査：自由記述抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●グルメ・飲食施設、物販施設やフリーマーケットの充実</li> <li>●子供の遊べる場の充実</li> <li>●イベントの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●駐車場整備や駐車場への案内の充実</li> <li>●イベント時のトイレの増設</li> <li>●舞鶴の歴史展示の充実</li> <li>●その他           <ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食スペースの充実や艦船への眺望</li> </ul> </li> </ul>
事業者 ・ 専門家 視点	<p style="text-align: center;">市内商工事業者、観光事業者ニーズ (事業者アンケート調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●導入が望ましい(必要な)機能           <ul style="list-style-type: none"> <li>・「飲食施設」が最も多く、ついで「物販施設」、「駐車場」等</li> </ul> </li> <li>●出店等可能性           <ul style="list-style-type: none"> <li>・「三角地」、次いで「親水エリア」「文庫山エリア」「遊覧船エリア」が高評価(「その他」を除く)</li> </ul> </li> <li>●出店等を促進する条件           <ul style="list-style-type: none"> <li>・出店募集の際の条件提示(設定)が重要</li> </ul> </li> <li>●出店検討のためのハード整備           <ul style="list-style-type: none"> <li>・「赤れんがパーク」に来ていただくための環境整備を重視</li> </ul> </li> <li>●集客力を向上させるソフト機能           <ul style="list-style-type: none"> <li>・リピート率の高い子ども連れ家族をターゲットとしている方が多い</li> </ul> </li> </ul>	<p style="text-align: center;">旅行者ヒアリング 専門家(ブランディング機構)ヒアリング ＜事業者意見(旅行者)＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●まちづくり           <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺市街地も含めたまちづくりによるまち全体の魅力向上</li> </ul> </li> <li>●バスツアー等の企画造成           <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊施設があれば造成しやすい</li> <li>・自衛艦見学は魅力</li> <li>・複数の観光資源をセットにし、複数パターンを用意</li> </ul> </li> <li>●2次アクセス           <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回バス、レンタカー、駐車場等の整備</li> </ul> </li> <li>●施設拡充           <ul style="list-style-type: none"> <li>・人出に合わせてフレキシブルに対応できるように</li> </ul> </li> <li>●物販施設           <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤れんが倉庫、海軍、海上自衛隊の雰囲気にもマッチしたもの</li> <li>・滞在時間を延ばすため見て回る楽しみをつくる</li> </ul> </li> </ul>

	内の眼（市内住民・事業者）	外の眼（市外住民・事業者）
事業者 ・ 専門家 視点	<p>市内商工事業者、観光事業者ニーズ （事業者アンケート調査）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●活性化や交流人口拡大等につながるアイデア等</li> <li>・飲食施設（地産地消型も含む）と物販施設（地場物産、お土産を含む）の充実、宿泊施設の整備などの記述が多い</li> <li>・「遊覧船の機能強化」や『『自衛隊』『海』のテーマパーク』、「東山地下壕（地下司令室）の観光利用」など、観光機能の強化充実に関する記述も</li> </ul>	<p>旅行者ヒアリング 専門家（ブランディング機構）ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●宿泊施設 <ul style="list-style-type: none"> <li>・当地にあることは必須ではない</li> <li>・夜景を楽しんでもらうためには近くに必要</li> <li>・そこに泊まる魅力（料理、温泉）、周辺環境（景観、賑わい風情、静けさ）が大事</li> </ul> </li> <li>●遊覧船 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平日も運航してほしい</li> <li>・大型化、もしくは増便対応してほしい</li> </ul> </li> <li>●観光機能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体客対応できる体験メニューの要望が多い</li> </ul> </li> <li>●トイレ <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くを整備する必要はない</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;専門家意見（ブランディング機構）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●商業機能の拡充 <ul style="list-style-type: none"> <li>・海側に飲食店があってもよい</li> </ul> </li> <li>●夜間の賑わいづくり <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜に飲食店を開いておく、ライトアップ等</li> </ul> </li> <li>●回遊・ネットワーク形成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場と赤れんがパークの間に歩いて楽しい仕組みが必要</li> <li>・ウォーターフロントのボードウォーク</li> </ul> </li> <li>●文庫山のサクラ植栽など</li> <li>●海上自衛隊との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携イベントなど舞鶴独自の情報発信</li> </ul> </li> </ul>

## 5. 整備の方向性・必要な機能

策定懇話会の意見及びアンケート調査・ヒアリング調査の結果等を踏まえ、「赤れんがパーク周辺エリア」の整備の方向性、方向性を踏まえた必要な導入機能について、次のとおりとりまとめました。

### <策定懇話会における主な意見>

- 「赤れんがパーク」へのアプローチの明確化と駐車場機能の充実
- 「海辺と赤れんが」の関連性の強化
- 長時間滞在可能な場所や休憩施設の充実
- 子ども連れ客や団体客に対応した施設の整備
- 収益施設の充実（雇用創出、観光消費額増加、産業基盤強化）
- 歴史文化等を発信・伝承する機能の整備
- 自衛隊施設への動線の整備
- 赤れんが博物館への動線の改善と充実
- 良好な景観づくり

### <アンケート調査・ヒアリング調査の結果>

- 「赤れんが倉庫」「海軍ゆかり」「海上自衛隊」のイメージを活用
- 来訪者拡大に向けた2次アクセス（巡回バス、市街地各所駐車場等）の整備
- 飲食施設、物販施設、駐車場、宿泊施設、子どもが遊べる場所の充実
- 物販等は「赤れんが倉庫」にマッチしたもの、見て回る楽しみづくり
- 遊覧船の増便・大型化など観光機能の強化
- 飲食施設の夜間営業やライトアップ等による夜の魅力向上
- 自衛隊と連携した観光地づくり
- 舞鶴の歴史展示の充実

### <整備の方向性>

- 「赤れんが」と「海・港」を一体のものとして活かしたエリア機能整備
- 自衛隊施設との機能的繋がりを強化する施設整備
- 導入部の明確化（ゲートウェイ空間としての機能強化）と駐車場機能の充実
- ウォーターフロントの立地特性を活かした親水空間の形成、景観づくり
- 回遊性の向上
- 観光機能や飲食機能、物販機能、休憩機能、歴史展示学習機能等の充実
- 市民・観光客の交流や来訪機会創出の仕掛けづくり
- 防災機能の維持・強化

### <必要な導入機能>

- |             |        |               |
|-------------|--------|---------------|
| ○ゲートウェイ空間機能 | ○親水機能  | ○景観機能（緑地・看板等） |
| ○休憩機能（トイレ等） | ○駐車場機能 | ○回遊機能（道路・歩道等） |
| ○飲食機能       | ○物販機能  | ○宿泊機能         |
| ○展示PR機能     | ○防災機能  |               |

## 6. 策定懇話会 提言

懇話会におけるこれまでの議論等を踏まえ、舞鶴市において、基本構想が策定されるにあたり、赤れんがパーク周辺等の整備に当たっての基本的な考え方、今後の展開、施設配置等について提言します。

### 6-1. 赤れんがパーク周辺エリアの整備コンセプト

貴重な歴史的建造物である赤れんが倉庫が建ち並び、国防拠点である海上自衛隊施設が隣接する赤れんがパーク周辺エリアは、他都市にはない舞鶴ならではの大きな魅力を有しており、多くの人を引き付けるエリアです。

赤れんがパーク周辺エリアの整備に当たっては、短期的には、増加する来場者への対応といった喫緊の課題に取り組む必要がありますが、早期に実施する事業を含め、エリア全体において、また、長期的な視点において、舞鶴市が、日本の近代化を支え、今日まで日本の安全を守るという崇高な使命を担ってきたまちであり、それらを象徴するエリアが、赤れんがパーク周辺であることを地域全体で共有し、舞鶴市民の誇りの象徴として、後世に引き継ぎ、多様な連携・交流により、新たな歴史・文化を生み出すエリアとして、ハード・ソフトの両面から整備していくことが重要です。

#### ■基本的な考え方

- ◎赤れんがパーク周辺エリアが有する歴史的価値、魅力を、地域全体で共有し、まちの象徴として、国内外に広く発信するため、赤れんが倉庫群を活用した交流拠点、歴史展示機能、商業機能などの整備を検討すること。
- ◎隣接する海上自衛隊施設との空間的繋がり、近代以降の歴史的繋がり、防災面等での機能的繋がり強化する整備を検討すること。
- ◎「赤れんが」と「海・港」が一体となった海辺の活用、親水空間の形成、景観づくり等を強く意識した整備を検討すること。
- ◎子どもから大人までの各世代が、また、幼少期から成長するそれぞれのライフステージにおいて、学習、体験、飲食、買物、散策、イベント参加など、多様な目的で赤れんがパーク周辺に訪れ、交流する機会を創出する整備を検討すること。
- ◎市民提案をはじめ、民間からの提案を積極的に取り入れ、協働によるエリアの充実、民間活力等による商業・サービス機能の導入を推し進めるなど、多様な連携、多様な主体による整備を検討すること。
- ◎現状と課題、土地利用状況、整備コスト等を踏まえ、事業の優先順位を定め、効果的・効率的にエリアの機能強化が図られる整備計画を検討すること。



## 6-2. 今後のまちづくり構想策定の展開に向けて

今後のまちづくり構想の策定、構想に基づく事業等の展開にあたっては、対象エリアである「赤れんがパーク」周辺をはじめ、地域に対する誇りや愛着を市民が共有し、一人ひとりがまちを支え、まちの未来をつくる一員であるという意識をもって、まちづくりに参加し、その実現に向かって取り組むことが重要です。

### ■「赤れんが周辺等まちづくり基本構想」の展開手順

#### ① 対象エリアの魅力、将来像を共有化する

- ・舞鶴市にとって、「赤れんがパーク」周辺が、市の成り立ちを示すだけでなく、日本の近代化の歴史を示す重要なエリアであること、「赤れんが」「海・港」のブランドイメージを推進する観光戦略拠点であることなどの対象エリアの魅力と、まちづくり基本構想に基づく「赤れんがパーク」周辺の将来の姿（整備の方向性、導入する機能、エリアでの過ごし方、楽しみ方など）を地域全体で共有する。

#### ② 地域全体で、将来像の具体化を考える

- ・今後の基本計画の策定、将来像の具体化にあたっては、市民をはじめ、市内事業者、まちづくり団体などが参画、提案できる仕組みをつくる。
- ・仕組みの中で、対象エリアの魅力への理解をさらに深めるとともに、将来の姿を実現するために「何ができるか」をそれぞれが考える。

#### ③ 将来像を実現するための事業を整理する

- ・将来像を実現するために必要なハード事業・ソフト事業を、規模、費用、スケジュール等を含め、段階的に取り組む計画（ステージプラン）を設定し、整理する。

#### ④ 事業を実施するための手法・役割分担を整理する

- ・ハード整備に向けた整備手法やソフト機能構築に向けた取組手法と、実施に向けて行政や事業者、市民、まちづくり団体などが担う役割分担を整理する。

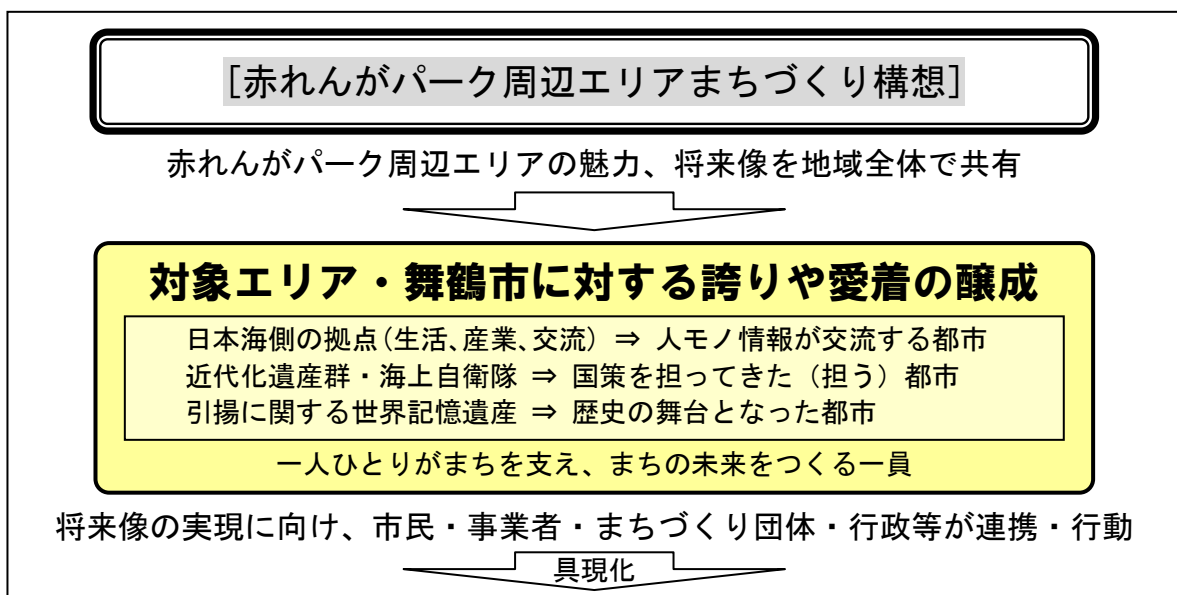


図6-1 まちづくり構想策定の展開イメージ

### 6-3. 施設配置の提案

「整備コンセプト」等を踏まえ、「整備の方向性・必要な機能」で示した内容を具体化した施設配置を提案します。

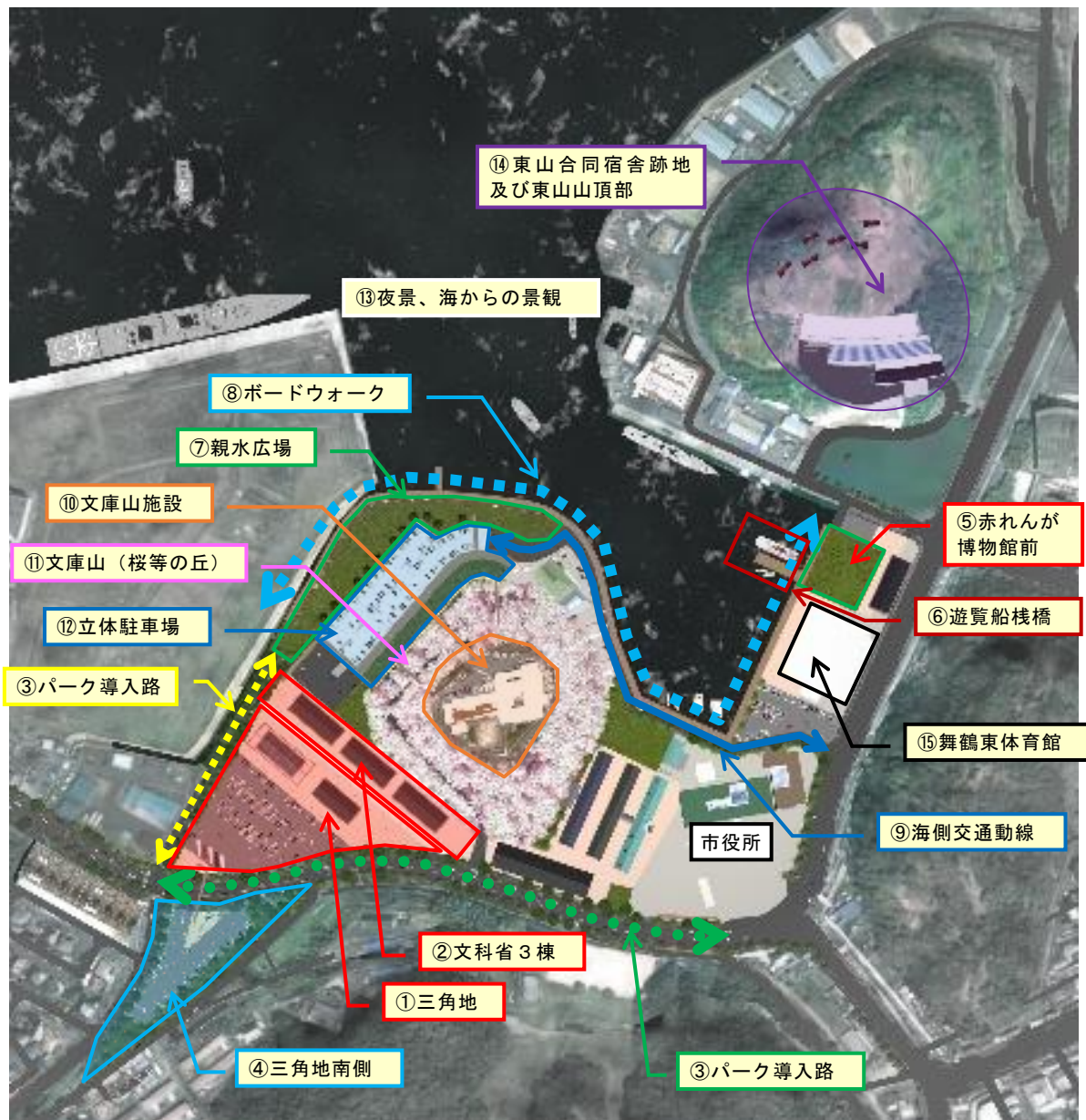


図6-2 「赤れんがパーク周辺エリア」施設配置提案図

## ■施設配置提案

### ① 三角地エリア

●赤れんがパークのメインゲートとして、赤れんが倉庫群の特長、景観を活かした交流と賑わいを創出する空間を整備します。

- ・来場者の起点となる複合交流拠点施設（観光案内、休憩施設、物販施設、トイレ（団体客対応）、駐車場等）を整備。
- ・防衛省No17号倉庫は、赤れんが倉庫群を形成する近代建築物の一つとして、保存・活用し、飲食・物販施設等として整備。

### ② 文部科学省赤れんが3棟エリア

●三角地エリアから赤れんがロードを通り、「日本近代化のあゆみ」「海軍ゆかりの歴史・文化」「国の安全・海の安全」を学べる機能を整備します。

- ・文部科学省赤れんが倉庫3棟は、赤れんが倉庫群の歴史・文化を伝える近代建築物として保全・転活用し、展示PR施設、物販・飲食等施設として整備。
- ・展示PR施設は、海上自衛隊やJMU等との連携・協力のもと、「海軍記念館」「舞鶴館」が所蔵する資料等を含め、近代化のあゆみ、国の安全・海の安全等について学べる施設とする。
- ・物販・飲食等施設では、「道の駅」のような賑わい創出のために地元の農産物や水産物等の販売も行う施設とする。
- ・赤れんがロードは、三角地エリアと赤れんが2～5号棟を結ぶ動線としてだけでなく、撮影スポットの背景となる赤れんが倉庫群の風景づくり、イベント空間として整備。

### ③ 赤れんがパーク導入路

●赤れんがパークの導入路として、緑により来訪者を迎え入れる空間を演出します。

- ・国道27号沿道に街路樹を植えるなど、緑豊かなプロムナードとして整備。
- ・三宅団地前交差点から赤れんがパーク専用駐車場までの道路は、専用駐車場から赤れんがロードへ、また、自衛隊見学施設（北吸栈橋等）への歩行者動線であり、安全性向上と緑のある景観を形成するため現道を拡幅し、歩道と植樹帯を整備。
- ・植樹帯は、イベント時に移動店舗（屋台等）出店スペースとしても利用可能な空間とする。

### ④ 三角地エリア南側

●来訪者増加に対応するため、三角地エリア南側の財務省用地を取得し、駐車場として整備します。

- ・メインゲートを印象付けるシンボリックなモニュメントを配置。
- ・現横断歩道橋を撤去し、東側に新たに横断歩道橋を整備。メインゲートへの安全な歩行者動線を確保する。

## ⑤ 赤れんが博物館前エリア

●「赤れんが」「海・港」の結節点として、開放感のある賑わい、憩い、交流・活動の空間として整備します。

- ・赤れんが博物館来館者や遊覧船乗船客が、舞鶴湾への眺望を楽しみ時間を過ごせるよう、現在の赤れんが博物館前の空間と連続した公園として整備。
- ・遊覧船乗船客が快適に過ごせ、交流等ができる待合所機能を有する施設を整備。

## ⑥ 遊覧船・遊覧船棧橋

●「海・港」を身近に体験できる観光遊覧機能を充実・強化します。

- ・遊覧機能の強化のため、大型遊覧船や、飲食可能な機能を有する遊覧船を配備。
- ・遊覧船の大型化、複数接岸に対応するため、遊覧船乗り場付近に新たに棧橋を整備。

## ⑦ 親水広場（緑地公園）

●市民、来訪者が、海辺に親しみ、海辺のロケーションを楽しむことができる開放感のある広場を整備し、賑わい、憩い、交流・活動などを促進します。

- ・赤れんがパーク専用駐車場から土地開発公社、民有地までの海沿いは、北吸棧橋に停泊する自衛隊艦艇や、クレーンブリッジなど、舞鶴らしい海の眺望を楽しめる緑地公園として整備。
- ・市民や来訪者が、滞在する（時間を過ごす、休憩する）ことができるよう、遊具施設等の整備をはじめ、ベンチやパラソル等を配置。

## ⑧ ボードウォーク

●市民、来訪者が、「海・港」をより身近に感じられるよう、また、エリア全体の回遊性を高めるため、海沿いにボードウォークを整備します。

- ・親水広場から、赤れんが広場、赤れんが博物館前エリアまでの海沿いにボードウォークを整備。
- ・ボードウォークに沿って、親水護岸などの親水機能を整備。

## ⑨ 海側交通動線

●混雑時・緊急時等の車両交通動線を確保するため、海側動線を整備します。

- ・自動車動線の補助ルートとして、専用駐車場等から赤れんが広場北側を結ぶ車両交通動線を整備。

## ⑩ 文庫山施設

●眺望を活かした来訪者の滞在時間を延ばす施設とするとともに、災害時の避難場所として機能する施設としても整備します。

- ・文庫山施設は、現建物を活用し、団体客にも対応できる飲食機能を整備。
- ・眺望を活かすため、建物屋上を利用できるようにし、テラス席を確保。
- ・施設建物の周囲は、赤れんがパーク、自衛隊艦艇の停泊する北吸棧橋をはじめ、舞鶴を象徴する眺望が楽しめる展望広場として整備。

- ・親水広場側や赤れんが赤れんが倉庫4号棟側から文庫山山頂部を經由して回遊できるよう道路や階段等（エレベーター等も含む）を整備。
- ・災害等発生時の観光客等の緊急避難場所として、備蓄倉庫、物資配送センターなど周辺施設とも連動する機能を整備。

#### ⑪ 文庫山（桜など花木の丘）

●文庫山の立地を活かし、エリアを象徴する景観を花と緑で創出します。

- ・市民をはじめ、多くの人との連携・交流の中で、整備に関するワークショップや、植栽、管理等を協働で行うなど、エリアを象徴する文庫山の景観づくりを通じて、地域への愛着や誇りを育む。

#### ⑫ 立体駐車場

●来場者増加に対応するとともに、親水広場の空間を確保するための立体駐車場などの駐車場を整備します。

- ・赤れんがパーク専用駐車場と土地開発公社所有地の文庫山麓に立体駐車場等を整備。
- ・文庫山の景観に配慮し、文庫山と一体となるよう、海側から2階、2.5階、3階の階段構造とし、壁面は、親水広場、周辺景観との調和に配慮。
- ・文庫山に接する棟の屋上は緑地化し、イベントスペース等として活用。

#### ⑬ 景観形成（まちなみ、夜景）

●市民、来訪者が何度も訪れたいくなる「赤れんが」「海・港」、まちの歴史と文化、心地よさを感じる景観を創出します。

- ・「舞鶴赤れんがパーク」C1戦略に基づくデザイン（建物の外観意匠、案内表示等）の統一。
- ・夜景の魅力を向上させるためのライトアップ設備を強化。夜間でも安心して来場できるよう、夜景を意識した街路灯を整備。
- ・遊覧船機能の充実・強化に合わせ、海から見る、赤れんがパークをはじめ、護岸、文庫山等の景観づくり。

#### ⑭ 東山合同宿舎跡地及び東山山頂部エリア

●エリアの整備状況等に応じた利用を図ります。

- ・東山合同宿舎跡地と東山山頂部は、当面は不足する駐車場機能を補完するエリアとして利用し、将来、宿泊施設用地として、東山合同宿舎跡地はホテル、東山山頂部はコテージとしての利用を検討。

#### ⑮ 舞鶴東体育館

●体育館の大空間を活用し、来訪者の活動・交流機会を創出する施設とします。

- ・災害時の物資配送センターとして機能する空間を維持しつつ、将来、大規模集客イベント等が実施できるビジターセンターとして、柔軟な利活用を検討。



図6-3 重点検討エリアの施設配置イメージ（三角地エリア、文部科学省赤れんが3棟エリア等の鳥瞰図）



図6-4 重点検討エリアの施設配置イメージ（親水広場（緑地公園）、立体駐車場等の鳥瞰図）



図6-5 重点検討エリアの施設配置イメージ（ボードウォーク、親水広場）





図6-6 重点検討エリアの施設配置イメージ（三角地エリア南側から三角地へのアプローチ）